

## 石綿含有建材調査者（一般）講習試験問題（抜粋）

### 科目：建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識 1

#### 【問題】

「建築物石綿含有建材調査」に関する①～④の記述のうち、不適切なものを一つ選び、×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 建築物石綿含有建材調査には、「改修の事前調査」、「解体の事前調査」の2種類で、「維持管理のための建築物調査」は含まれていない。
	② 石国内では、1956（昭和31）年から、吹付け石綿が販売されていた。
	③ 1995（平成7）年、石綿を1重量パーセントを超えて含有する吹付け作業が原則禁止と強化され、労働安全衛生法施行令の改正で、茶石綿（アモサイト）・青石綿（クロシドライト）の製造などの禁止が行われた。
	④ 2006（平成18）年には労働安全衛生法施行令が改正され、石綿を0.1重量パーセントを超えて含有する製品の製造等が禁止された。

#### 【問題】

「建築物石綿含有建材調査」に関する①～④の記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 現在でも、製造禁止前から使用されている石綿含有製品の継続使用は、禁止されていない。
	② 石綿障害予防規則に基づく調査で対象とする建材は、レベル1、2、3に該当する全ての建材であり、調査者は工事対象部分のすべてを調査し、すべての種類の建材の石綿の含有の有無を確認する必要がある。
	③ 事前調査及び分析の結果の記録等は、工事終了後、1年間保存しなければならない。
	④ 令和4年4月から、解体工事部分の床面積の合計が80m <sup>2</sup> 以上の建築物の解体工事は、工事開始前までに、事前調査の結果等を労働基準監督署に届け出なければならない。

**【問題】**

「石綿の定義、種類、特性」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 厚生労働省通達では、石綿を「繊維状を呈しているアクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト及びトレモライト」と定義している。
	② 角閃石群に分類されるウインチャイト、リヒライトの2鉱物を含むパーミキュライトが原因とされる石綿肺の発症がアメリカで報告され、日本でも建材中に存在が確認されたという報告がある。
	③ 石綿の特性として、電気を通しにくい、細菌・湿気に弱い点がある。
	④ レベル1の石綿は、もっとも飛散性が高い石綿含有吹付け材であり、吹付け石綿などはこのカテゴリーに含まれる。

**科目：建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識2**

**【問題】**

「大気汚染防止法、建築基準法その他の関係法令」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）では、建築物等の分別解体等のための調査が義務づけられており、また、自治体の条例でも調査義務が課せられている場合もある。
	② 大気汚染防止法の規制の対象作業は、石綿を飛散させる原因となる建築材料が使用されている建築物の解体のみが対象となる。
	③ 事前調査は元請業者が行い、発注者に説明し、記録事項及び記録・説明書面の写しを保存しなければならない。
	④ 大気汚染防止法の定めにより、元請業者が行った事前調査に関する記録は、解体等工事が終了した日から3年間保存する。

**【問題】**

表は、建設リサイクル法の対象建設工事と規模である。問題文 ①、②、③、④は、表中の規模ア、イ、ウ、エに該当するものを示したものである。規模の組合せとして正しいものを一つ選

び○を付けなさい。

対象建設工事		規模
1	建築物に係る解体工事	ア
2	建築物に係る新築工事・増築工事	イ
3	建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事	ウ
4	建築物に係る新築工事等であって、新築又は増築の工事に該当しないもの	エ

回答欄	問題文
①	ア) 建築物の床面積の合計 80m <sup>2</sup> 以上、イ) 建築物の床面積の合計 500m <sup>2</sup> 以上、ウ) 請負代金の額 500 万円（税込）以上、エ) 請負代金の額 1 億円（税込）以上
②	ア) 建築物の床面積の合計 100m <sup>2</sup> 以上、イ) 建築物の床面積の合計 500m <sup>2</sup> 以上、ウ) 請負代金の額 500 万円（税込）以上、エ) 請負代金の額 1 億円（税込）以上
③	ア) 請負代金の額 500 万円（税込）以上、イ) 請負代金の額 1 億円（税込）以上、ウ) 建築物の床面積の合計 80m <sup>2</sup> 以上、エ) 建築物の床面積の合計 500m <sup>2</sup> 以上
④	ア) 請負代金の額 500 万円（税込）以上、イ) 請負代金の額 1 億円（税込）以上、ウ) 建築物の床面積の合計 100m <sup>2</sup> 以上、エ) 建築物の床面積の合計 500m <sup>2</sup> 以上

【問題】

「リスクコミュニケーション」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
①	石綿繊維の飛散に起因する健康障害のリスクは、石綿含有建材の除去作業などを行う作業者ととどまらず、石綿が使用されている建物の一般的な利用者にも影響を及ぼす。
②	米国のリスク評価及びリスク管理に関する米国大統領・議会諮問委員会では、「リスク管理の目標は、社会、文化、倫理、政治、法律について考慮しながら、リスクを減らしたり、未然に防止するための科学的に妥当で費用対効果の優れた一連の行動を実施することである。」と定義している。
③	リスク管理の6つのプロセスのうち「実施」において、リスク対策で重要な役割を果たす関係者を、意思決定過程に関与させることは重要ではない。
④	日本国内において、石綿の飛散防止に関して周辺住民等とのリスク・コミュニケーションが図られ、工事が円滑に進むことを期待し、環境省から「建築物等の解体等工事における石綿飛散防止対策に係るリスク・コミュニケーションガイドライン」が2017（平成29）年に公表されている。

## 科目：石綿含有建材の建築図面調査

### 【問題】

「建築一般(耐火性能等)」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 建築基準法施行令第1条3号において、「構造耐力上主要な部分」について、建築物の力学的構造に関連する部分を定めている。
	② 建築基準法では、耐火建築物の階によって要求される耐火性能が同一である。
	③ 建築基準法において、建築物の最上階及び最上階から数えた階数が「2以上で4以内の階」における「柱」の要求耐火性能は、「1時間」である。
	④ 建築基準法施行令第2条第1項第8号の規定により、階数に算入されない屋上部分がある建築物の部分の最上階は、当該屋上部分の直下階とする。

### 【問題】

「建築設備」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 建築基準法で定義する建築設備のうち、防火設備に「スプリンクラー」は含まれる。
	② 電気設備において、ケーブルが上下階や壁を貫通する場合の防火区画貫通処理に、「けい酸カルシウム板第一種」を使用することが多くみられる。
	③ 給排水設備では、ボイラー本体の断熱や配管エルボの保温に石綿が使われており、また、ボイラー室の壁や天井に吹付け石綿が使われていた。
	④ ペリメータカウンターには、空調設備が設置されていることが多く、配管の石綿含有保温材やファンコイルユニットの吸音のために吹付け石綿などが施工されている。

### 【問題】

「石綿含有建材(レベル3建材)」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 石綿セメント管は、主に上下水道管に使用された。

	② 石綿発泡体に使用されている石綿の種類は「クロシドライト」石綿で、石綿の含有率は10～20%と低い。
	③ 建築用仕上塗材には、吹付け材と称されていた時期もあるため、耐火被覆などで使用されている吹付け石綿や石綿含有吹付けロックウールと混同されることもあるが、内外装の表面仕上げ材に使用される塗装又は左官材料である。
	④ 石綿含有仕上塗材・下地調整塗材に使用された石綿はクリソタイルが多いが、中にはアモサイトやトレモライトが使用されている場合がある。

## 科目：現地調査の実際と留意点

### 【問題】

「事前準備」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 調査に必要な試料採取用密閉容器（チャック付きポリ袋）は、メモ書きが可能で、サイズは2～3種類用意する。
	② 調査対象の現場が高所の時には、脚立などの足場を用いる。また、建材等を取り外す時には、パール、ハンマー、ベビーサンダーなどが必要となる。
	③ 調査対象の現場が狭隘である場合には、「手鏡」、「暗視カメラ」、また現場が暗所である場合には「投光器」などが必要となるが、調査対象の現場の状況は行ってみないとわからないので、事前に準備する必要はない。
	④ 調査に必要な用品には、工業用ファイバースコープ、レーザー距離計、スモークテスター、PS 専用の扉ハンドル、下地検知器、HEPA フィルタ付き真空掃除機などがある。

### 【問題】

「現地調査の実施要領(基本事項等)」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 現地調査に臨む姿勢として、同一パターンの部屋である場合は、他の部屋での試料を多めに採取し、それを小分けにして他の部屋の試料として分析調査することで効率化を図ることができる。
	② 現地調査に臨む基本姿勢として、一部の天井や壁だけを目視して対象物の有無を判断してしまうような粗雑な調査をしてはならない。

	③ 現地調査に臨む基本姿勢として、狭隘部での調査の後は、作業衣の背中などに繊維が付着していないことなどを点検し、調査終了時には使用した用品の洗浄や試料の確認、石綿含有建材調査者自身の「洗顔」「うがい」などを励行する。
	④ 現地調査で対象建築物の外周を一周してみたり、ある程度離れた場所から建築物の全体を観察すると、塔屋や煙突の位置などの確認が出来ることがある。

**【問題】**

「資料採取(留意事項等)」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 成型板の試料の採取は、試料採取範囲から2箇所を選定して、1箇所あたり100平方センチメートル程度の試料をそれぞれ採取する。
	② 成型板の試料採取に当たっては、採取部位を養生後、飛散抑制剤等で採取箇所を湿潤化し、鋭利な道具で切り抜くように採取する。
	③ 建築用仕上塗材の試料の採取は粉じんが飛散しないように採取面に無じん水を散布（噴霧）してから、カッターナイフ、スクレーパ等で仕上塗材表面部分から仕上塗材内部に刃先を入れ少しずつ剥離、採取する。
	④ 採取してきた分析試料は整理し、それぞれの分析試料の袋に、試料番号と部屋名、部位、建材製品名、採取年月日が正しく記入されているかを確認する。

**科目：建築物石綿含有建材調査報告書の作成**

**【問題】**

「現地調査総括票の記入」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 建築物の概要欄における建築物所在地は、地番・家屋番号ではなく、「住居表示」を記入する。
	② 所有者情報提供依頼概要欄において、過去の調査では、石綿の種類や含有量が現在の基準に基づいて実施されていない場合もあるので、調査・分析した時期は重要であり、所有者に調査時期による調査の不足を理解してもらうように努める。
	③ 所有者情報提供依頼概要欄において図面有りの場合は、「竣工図・仕上表・矩計図」以外の図面の場合は、記入する必要はない。

	④ 所有者情報提供依頼概要欄における調査者記入欄は、調査者が事前に実施した所有者へのヒアリング内容や実際に調査した上でのコメントを記載する。
--	--

**【問題】**

次の①～④のうち、事前調査記録の記載事項に含まれないものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 事業者の名称、住所及び電話番号
	② 調査対象の建築物等の竣工日等
	③ 事前調査を行った部分（分析調査を行った場合は、分析のための試料を採取した場所を含む）
	④ 目視による確認が困難な材料の有無及び場所

**【問題】**

「所有者、地方公共団体等への報告」に関する記述のうち、不適切なものを一つ選び×を付けなさい。

回答欄	問題文
	① 報告に当たっては、建築物における石綿の健康影響に関する基礎知識、リスクコミュニケーションの知識とその実施に関する技術などを踏まえ、公正中立の立場から、建築物の所有者等の求めに応じて、丁寧に説明することが重要である。
	② 建築物の所有者等は、建築物の解体・改修を行う場合、守秘義務があるため、施工者に調査報告書を開示できない。
	③ 建築物等の所有者も石綿飛散防止対策に責務を有していることから、解体・改修工事や石綿の除去までではなく、調査を終了した月から3年間記録を保存することが望ましい。
	④ 地方公共団体に対して調査結果を報告し、報告を受けた地方公共団体は、あらかじめ整備した石綿台帳に調査結果を入力することとなる。